

議会だより

こさか

2017年

vol.80

平成29年2月10日発行



今年も晴天のもと出初め恒例の餅まきが行われました

1. 12月定例議会（議案一覧・賛否一覧） 2
2. 一般質問 こんなことを聞きました 3～7
3. 委員会レポート 8
4. 議員と語る会(11月実施)の意見・要望・回答 9～10
5. 議会議員事務調査報告（運営委員会・両常任委員会） 11～12

1 10番 小笠原憲昭 議員

1. 町長の町政運営について
2. 第5次総合計画後期計画について
3. 教育に関して

2 3番 本田 佳子 議員

1. 結婚新生活支援事業について
2. ネウボラについて

3 1番 鹿兒島 巖 議員

1. PPK（ピンピンコロリ）のまちづくりについて
2. 社会教育施設としてのセパームの位置づけについて
3. 放射能汚染廃棄物搬入問題について

4 8番 成田 直人 議員

1. 町職員の健康管理について
2. レールパーク事業について

一 般

質 問

12月定例議会

こんなことを 聞きました

4議員が質問しました

▶ 一般質問では、4議員が10項目にわたって質問を行いました。次ページから質問・答弁の内容を要約してお伝えします。



一般質問とは？

一般質問は、年4回の議会定例会において行われます。議題とは関係なく、行財政全般にわたる議員主導による政策論議であるため、通告制が採用されています。通告（質問の届け出）は、議員個人の判断によります。

にぎわい創出事業の今後の取り組みは

町長 観光客を呼び込み町民との交流でにぎわい創出



小笠原憲昭議員



市日の行方は

二期八年間の自己評価は

答 第五次総合計画を策定し、小中一貫教育、小坂鉄道レールパークを核とするにぎわい創出プロジェクト、パークゴルフ場を中心とした、みんなの運動公園整備、緊急告知ラジオの運用、役場庁舎の移転、若者定住住宅整備、上向七滝バス路線運行、高校生までの医療費無料化、義務教育給食費半額助成等々、町民目線で各種施策に取り組みました。

大きな課題の人口減少に歯止めをかけることは容易なことではなく、至らぬ点があったことも事実です。

今後のにぎわい創出事業は

答 小坂鉄道レールパーク整備、赤煉瓦にぎわい館建設、古館駅前線整備、モニユメント整備、案内機能整備などのハード事業を行いました。今後はいかに観光客を呼び込み町民が交流しあい、にぎ

小坂市日について

わいの場とするかが焦点になるものと認識しています。

答 現在地で開設されてから20年以上経過し、建物の老朽化や空きスペースが多くなりました。会の代表者からは、会員の高齢化や後継者不足による会員の減少、駐車場不足、除雪問題もあり、建物の一部解体も検討しているが、費用負担が困難であるため、町にも相談したいとのことでした。市日を利用する町民の利便性も考慮し、存続を願っており、支援内容を検討したいと考えています。

商店への助成事業の成果は

答 商業店舗リフォーム補助金として開始しましたが、補助申請がない状況です。希望する支援を再検討します。

資格取得への助成事業は

答 小坂高校生徒の資格取得支援補助を実施してきましたが、一般住民向けの助成事業はありませんでした。求職者等のニーズを集約し、たうえて、町民のスキルアップ

いじめ・不登校の現状は

プによる就業支援につなげるため検討したいと思っています。

答 いじめの認知件数は、年々増加傾向にあります。これはいじめの定義が拡大されたことによるものです。認知された場合には、学級担任、学年部上司等でチームを組んで報告・相談・事実確認を行い、いじめられている側への心のケア、保護者への理解と協力要請等の即時対応に努めています。

不登校については、小・中学校とも数名の不登校傾向の児童生徒がおります。一人一人への援助のあり方を検討するケース会議を開き、学校全体で対応にあたっています。

給食費の無料化は

答 今年度から半額補助を実施しています。当面はこのまま継続しながら、将来的な補助を検討したいと思っています。

部活動の支援拡大について

答 27年度に全世帯からの寄付要請を取りやめたこと、部員の減少により部費が減った



部活支援を公費で

ことにより、中学校部活動の運営が厳しい状況にあります。

スポーツ少年団活動や部活動の振興は、学校教育を進めるうえでも大切です。実態に即した支援のあり方について、検討します。

トイレの洋式便器率は

答 町の洋式率は、小学校の体育館を除き100%となっています。

奨学金への取り組みは

答 若い世代の定住促進の取り組みとして、奨学金返還助成事業を掲げ、今年度すでに制度化しています。

所得の少ない新婚世帯新生活に援助を

町長 結婚しやすい環境づくりの充実を図っていききたい



本田 佳子議員

満で平成28年4月1日から平成29年3月31日までに新たに婚姻届を提出した世帯で、新居の住居費および引っ越し費用に対して自治体が18万円を限度に助成し、その4分の3を国が補助するというものです。秋田県では、大館市、五城目町、上小阿仁村が国からの補助金の交付を受けています。対象期間が短いうえ、事業の継続性が不透明であるため、またその他にも、町の施策として経済的負担の軽減を行った他の事業を行っており、本事業の取り組みを見送りました。今後は、現在実施している施策の検証を行いながら、その内容拡充等を検討し、結婚しやすい環境づくりの充実を図っていきます。

問 結婚意志のある未婚者を対象に「結婚の障害」となる理由を調査したところ、「結婚資金（挙式や新生活の準備のための費用）」「結婚のための住居」という理由だった。結婚を望みながらも経済的な理由で踏み出せない人が増えれば子どもの出生率の低下につながり少子化が加速する。国では所得の少ない新婚世帯を援助する「結婚新生活支援事業補助金」を提示しているが、町では取り入れているか。

答 この補助制度は国が平成27年度補正予算で措置したもので、世帯年収300万円未

ネウボラで子育て支援のワンストップ化で更なる充実を

町長 今後、各自治体に義務設置される見通し

問 「ネウボラ」とはフィンランドの子育て支援拠点で、アドバイスする「助言の場」を指します。妊娠期から就学するまでを継続してサポートし家庭の状況を早期に把握するというもので、孤立化や産後うつ、虐待予防に役立っているといえます。

①妊娠前から、本人だけでなく家族などが相談できる窓口は、設けてあるか。

②妊婦への訪問指導は実施されているか。

③世代の違う同居家族への現代の子育てにおける理解を求める努力がされているか。

答 ①保健センターを窓口として妊娠初期から学童期までを対象に子育て相談を実施しており、妊婦ばかりでなく不妊に悩む方の相談・助成も行っていきます。

②医療機関との連携体制のなかで、妊婦検診時に特異な所見があった場合などには、医



子育て支援はどここの自治体も一生懸命

の取り組みを参考に、子育て世代包括支援センター、いわゆる日本版ネウボラを設置し、子育てのワンストップ化を推進するためのモデル事業を平成27年度より展開しています。今後はこの子育て世代包括支援センターが、法定化され、各自治体に義務設置されることとなる見通しです。

療機関から連絡が入ることでなっており、必要に応じて保健師が妊婦訪問、産婦訪問を行っていきます。

③最新の知識を掲載したパンフレットを配布し、家族全体で共通意識をもてるように指導するほか、場合によっては保健師が訪問し家族との話し合いの機会をもつようになっています。

また日本でもフィンランド



子どもは地域の宝です

PPK(ピンピンコロリ)のまちづくりを

町長 PPKの言葉が使えるように

まちづくりを考えます



鹿兒島 巖議員



お元気クラブの交流会で

問 高齢者の医療・介護は町民の暮らし向きにとっても、町の課題や財政にとっても深刻さを増してきているが、町民の求める老後は健康で終末期を迎え、安らかに天寿を全うする、いわゆるPPK(ピンピンコロリ)と受け止めており、暮らしの中にPPKに向けた施策(要支援・要介護者をつくらない介護保険サービスの手前の施策)を、まちづくりの重点に置き直して、町部署の健康・福祉部門だけではなく、社会教育・生涯教育部門との連携で推進することを提案したい。

答 現在実施している第6次介護保険事業計画でも、指摘の点に対応するため、介護予防・日常生活支援事業への取り組みを盛り込み、全国の中でも早期の事業実施をしています。

高齢者が住みなれた地域で生き活きと暮らし続ける事を目標に、地域を単位として軽

度の生活支援サービスを実施するとともに高齢者が自らもサービスの担い手になることなどを通して社会参加を促し、生きがいづくりに繋げていこうとするものです。この方向が総合計画で示している。高齢者も元気に暮らせるまちづくり。そして、ピンピン

利用しやすいセパームへ工夫と改善を

町長 利用者の声を聞き改善したい

問 町の総合教育会議で来年度の重点施策案が示され、その一つに社会教育の充実が提示されたとのことであるが、

充実に取り組むとすれば、中核施設としてセパームの位置づけと機能の見直しが必要と考えるがどうか。

講座室での子どもクラブSKIP運営は暫定的な措置と受け止めているがどうか。

コロリのまちづくりにつながる。来年度は町の第6次介護保健事業計画の最終年度で、平成30年度から実施する第7次介護保健事業計画の作成に当たりますので提案を受け止めます。

改善を考えています。特に和室については高齢社会の到来と考えますが、座って何かする事が困難になっていると受け止めていますので検討が必要と考えているところです。

答 ホール、和室、研修室の

講座室での「こどもクラブSKIP」の運営ですが、実際にスタートし、試行錯誤を



利用しやすいセパームに

繰り返しながら改善を図った結果、今年度は運営形態も確立して活動も順調に推移しています。

講座室についてご迷惑をかけている方々がいらっしやるとすれば十分な説明、ご理解をいただくと点でこれからは丁寧に取り組んでいかなければならないとともに、その代わりにもどのようなことがよいのかも併せて伺いながら前向きにやっています。

放射能汚染廃棄物の搬入問題は解決していない。一般廃棄物処理法の適用外・放射性物質汚染対処法は遡及適用出来ないとする法解釈で町民の安心・安全は本当に守れるのか。

町長 法令に違反する状態とは考えていない

平成28年度宿泊利用者数は

町長 目標3千人に対して2, 121人

健康に留意した町の取り組みを



成田 直人議員

問 町職員に対し、昼食後の

血糖値を測定し、糖尿病の疑いがあると確認された職員への健康指導を行う考えは。

答 臨時職員を含む全職員を対象とした職場検診を実施しており、検査項目には、血糖値及び尿検査をおこなっています。

その結果を受け、医師の診断を受けている職員も多くなります。このような受診結果であった職員については、通院等の適切な対応をとるよう促しているところです。

ご提案いただいた手法による検査について公費を用いての実施は困難であると考えますので、自己責任による健康管理について十分に留意するよう引き続き呼びかけていきます。

問 血糖値の測定器及び検査キットは決して高価な金額で

は無い。

私の提案の目的は、町民が納める国民健康保険料を下げるのが狙いである。

先ずは役場職員が実施し、そしてこの取り組みを民間企業で、また、お元気づらぶなどでもおこない、保険税を抑制することにつなげてほしい。

糖尿病による三大合併症は、「網膜剥離による失明・壊疽による足の切断・腎臓疾患による人口透析」、この透析が末期になると1級の障害者手帳が付与され、年間500〜600万円の医療費が国保会計から支払われることになるが、これらを政策的に判断し、結果として、国保会計を抑制出来るよう、また、日本で最も健康に取り組む町として、実施されることを切望する。

あけぼの号の収支状況は

問 平成28年度11月段階での収支状況を含め、3カ年の資料を提出いただき、計画通りの事業進捗が果たされているのか、町長よりPDCAサイクルに基づいた将来展望をお知らせいただきたい。

答 レールバイク・観光トロッコ等の乗車体験数は、平成28年度は減少となりました。あけぼのの宿泊者数は、目標3千人に対し、2, 121人でした。あけぼのの活用を機に、平成28年度はレールパーク利用者の増加を期待していましたが、総入園者数は減少となりました。この結果を受け、魅力ある新たな体験メニュー等の開発とともに、あけぼのの魅力を多種のメディアを利用しさらに発信することにより、入園者及び宿泊者数の増加を図りたいと考えています。

問 レールパーク事業については、平成29年度より町の管理運営から民間への指定管理に移行するとの説明を受けているが、その展望についてお



利用者減少にあるレールパーク事業

知らせいただきたい。
答 レールパーク事業の収支は、当初の計画の水準まで達していませんが、民間の経営手段の活用により、より効果的な事業展開を図るため、平成29年度から指定管理に移行したいと考えています。

問 まちづくり会社が委託を受けるとのことだが、この厳しい決算状況のなかで経営を維持するためには多額の税金をつぎ込まなければ不可能なことであると判断する。

答 今後三年間の成果を勘案し、事業の取り止めも含め判断する必要があるのではないかと。五年の時間を頂きたい。

利用者増が求められる寝台列車あけぼの



委員会レポート

12月定例議会の会期中における各常任委員会の審議の状況を紹介します。

なお、各常任委員会に付託された条例案や陳情等の審議結果は、2面の議案一覧表をご覧ください。

総務福祉 常任委員会

総務福祉常任委員会に付託された案件は、陳情5件のみで、条例関係はありませんでした。

審議の結果、いずれも採択すべきものと決定しました。

14日、最終日の本会議の後、11月30日から12月2日まで5会場で行われた、「議員と語る会」で出された意見・要望について、検討を行いました。総務福祉常任委員会は、七滝地区と上向地区で、地域のみなさんと意見交換を行いました。なお、中央地区は産業教育常任委員会と合同で開催しました。

どこの会場でも出された意見としては、小坂小学校と小

坂中学校が一体になったことにより、セパーム利用者と児童生徒の下校時に車が集中しとても危険だとのことでありました。この件については、町執行部も喫緊の課題であるとの認識を持っており、いくつかの案を作成し、議員全員協議会に示されており、新年度予算作成までに結論を出したいとのことでした。

議会としても第一義的には、子どもの安全確保が最優先だとの考えから、意見を述べていきたいと考えています。



駐車場確保に難儀

産業教育 常任委員会

産業教育常任委員会に付託された案件は、条例制定案が2件、条例改正案が1件であり、陳情、請願等はありませんでした。

新たに制定される条例案の一つは、地産地消及び食育の推進に関するものです。委員からは、「情報発信を頻繁にしてほしい。」「積極的に斡旋、指導できるのか。」「などの意見が出されました。もう一つは、農業委員を選挙で選ぶ方法から、市町村長が

推薦・募集を行い任命する方法に変更、併せて遊休農地の発生防止・解消を推進することなどを目的として、新たに農業委員会の中に農地利用最適化推進委員を設けるとして法律改正がなされたことにより、新たに条例を制定したいというものです。

委員からは、認定農業者との関わり、「農業離れによって将来、定数を確保できるのか。」「などの意見が出されました。

条例改正案は、新たに設けられる「農地利用最適化推進委員」の月額報酬を追加するというものです。

いずれの案件も全会一致で、可決すべきものとなりました。

産業教育常任委員会でも、最終日本会議の後、「議員と語る会」で出された意見・要望について検討しました。

当委員会は、十和田湖地区と川上地区でみなさんと意見交換をしました。十和田湖地区では、国立公園満喫プロジェクト効果に期待する声が聞かれました。

川上地区では、「小坂ジャ



進む農地の大規模化



常に新鮮な地場産品

ンクシヨンの構造を変えられないか。」などの意見が出されました。

第25回議員と語る会の概要 (意見や要望事項と回答)

平成28年11月30日(水)〜平成28年12月2日(金)

七滝地区



七滝地区での語る会

一 町営バスの七滝方面へのバス代が高い。もう少しやすくしてほしい。また、町の行事やイベントがある時には運行してほしい。

【議会】 利用者協議会が7月に開催されている。自治会長がメンバーとなっており、そういう時に意見を出してほしい。町にも伝える。

【町】 利用促進協議会を開催していますので、各地区の要望

を協議し、関係機関との協議や手続きを経たうえで変更は可能です。通学で利用する小学生には無料の定期券、中学生には無料の回数券が配付されています。

二 朝の通勤時は鹿角、大館方面から小坂町に入る車が相当ある。小坂の若者たちも働けるよう町が取り組むべきではないか。

【町】 県などと一緒に小坂町産業振興会に要望しています。高校生を対象とした企業との面談会を開催し、地元定着を図る施策を実施しています。

三 ワイナリーはどう取り組まれているのか。許可は取れるのか。ジューズも含めないで困るのではないか。

【町】 各種手続きを進め、今年秋のプロドウ収穫分から製造を予定しています。ジューズ製造も行う予定です。

四 大地集落内の舗装は、全面的に傷んでいる。年次計

画でも良いので改良工事をしてほしい。

【町】 舗装改良事業は、交通量や傷み具合を調査し、取り組んでいます。当地区では経過を観察しながら部分補修で対応したいと考えています。

五 十和田湖を一周できる遊歩道を整備すれば、観光客が来るのではないか。

【町】 遊歩道の整備については、現在、県に要望しています。

十和田湖地区

一 和井内地区の再開発にあたり、ふ化場も観光客に見学してもらいたい。併せて旧和井内商店も撤去できないか。

【町】 エリア整備については、地元の皆様から意見を聞いて策定中です。旧和井内商店は所有者の確認ができていない状況です。

二 冬季閉鎖となる規制看板は早めに設置してほしい。

また、西十和田トンネル整備構想はどうなっているのか。

三 ふるさとセンターの女子トイレを改修し、おむつを交換する場所を造ってほしい。また、2階も整備してほしい。

【町】 トイレの洋式化の計画があるので、併せて検討したいと考えています。

四 発荷峠駐車場の除雪をもう少し広くやってほしい。

【町】 県から、チェーン脱着所として除雪していただいていますのでご理解願います。

五 閉鎖するホテルが多く、温泉施設の運営が困難となっている。補助金を増額してほしい。

六 秋田県側から十和田湖に乗り入れるバスがない。観光客からも聞かれる。前向きに検討してほしい。

上向地区

一 鶴センター前を舗装していただき感謝している。引き続き残りの部分もお願いしたい。

【町】 一部舗装改良しましたが、残りについては経過観察



上向地区での語る会

したいと思います。

二 間口除雪制度は、困っている人が町に登録し、町が実施できないか。

【議会】 自治会での共助としているが、若い人が働いているため、どこの地区でも難しいと言われている。工夫が必要と思う。

三 除雪はオペレーターによつて、作業内容が違う。指導を徹底してほしい。また、県道等の苦情についても町で一括して受けてほしい。

【議会】 狭い道路は、ローダーで押す時代ではない。もっとロータリーを活用すべきと思う。

【町】 今後も指導を徹底します。国県道に関する苦情も町が受けて、県に伝えています。

川上地区

一 川上公民館の外壁がはがれ落ちてきている。早急に修理願いたい。

町 災害時の避難所となることから、耐震診断を行ったのち、整備する予定です。

二 町道新遠部線の駐車場の蓋が壊れている。併せて夏場にはスノーポールを格納してほしい。

町 蓋は交換します。スノーポールは交通安全上から必要と考えていますが、関係機関と協議したいと思います。

三 小坂ジャンクションの構造を縦貫道へも乗れるよう改めて要望してほしい。

町 要望は難しいと考えています。



川上地区での語る会

中央地区

一 レールパークは、平成26・27年度と赤字のようだが、後どのようにする考えか。町民の意見も取り入れては。

議会 議員の中にもいろんな意見がある。町民の中にも、汽笛を聞けば元気が出るという方もいるし、このまま続けて大丈夫かという人もいます。議会としても安易に補助金に頼らないよう注視していきたい。

町 まだまだ宣伝不足かと思うので、いろいろな媒体を活用した宣伝を考えています。今後は、町内の事業者と連携し観光体験メニューを開発して、滞在時間の延長を図りながら、事業者の収入につながることを協議したいと考えています。

二 子どもの安心保育事業として、いくつかの支援制度はあるが、急に保育園に行かない事情の時もある。働いている母親からすると緊急の場合の対応があつてほしい。

議会 議会でも町に要望したが、医師や看護師の不足もあり対応は難しい。医療関係者を雇うことが出来ないか考えていきたい。

町 今年度から、鹿角市病児保育室（かづの厚生病院内）に委託しています。日常り患する疾病、感染性疾病などの児童を一時的（連続五日以内利用者負担一日千円）に保育するものです。今後も子育て支援の充実に向けた事業を拡大したいと思っています。



中央地区での語る会

全地区共通課題

今回の「議員と語る会」において、どの地区でもセバームの駐車場に関する質問と意見が出された。この問題については、共通課題として以下のとおり集約したい。

◎質問と意見

・小坂小中学校及びセバーム周辺は、児童生徒の送迎や町民のセバーム利用者にとって交通安全上、危険な状態であることは数年前から言われていることだが、議会の対応は。

・セバームテニスコートを用途変更して駐車場を拡張し、併せて周辺の交通経路の整備を行うことが喫緊の課題であり、早期に解決を図ってほしい。

・テニスコートは移転することを提案する。

・ほかにセバーム周辺の問題として、小学校プールの問題、セバームの投光器移設。

◎議会からの説明

・高枚問題は、この春に県教委から方針が示され、残念ながら存続は断念せざるを得ない状況が明らかになった。そのため、今後は駐車場問題を最優先に考えていきたい。

・先に教育委員会から議会に對して、素案について説明があった。それによると

- ①テニスコートを中学校側2面を残し、残りを駐車場とした場合、130台のスペースが出来る。
- ②両側の出入り口を拡張し、国道側からの一方通行とする。
- ③セバーム玄関前から校舎方面へは、バスを除き進入禁止とする。
- ④テニスコート2面を残し、周辺の交通規制を行うことで安全対策を図る。

◎議会の対応

・行政に対して即刻具体策を示すことを求める。

・この問題を最優先課題と位置づけ、「議員と語る会」でいただいた意見や提案、あるいは議員活動の中で受け止めた意見・提案を踏まえて、問題解決のために積極的に取り組むことで合意している。

議会議員事務調査報告

小坂町議会では、2年に1度、各分野の先進地の自治体を訪ねながら、自らの今後の議員活動に役立てるよう先進地視察を行っております。

今年度は、議会運営委員会が10月18日から19日までの2日間、北海道江差町へ、総務福祉常任委員会と産業教育常任委員会は、11月9日から11日までの3日間、長崎県の3市町に研修に行ってきました。その内容を紹介します。

議会運営委員会

平成28年10月18日～10月19日
北海道 江差町

調査テーマ ・ 議会運営について

江差町は、北海道の南西部に位置し、皆様ご存じのとおり、古くからニシン漁で栄え、最盛期には江戸に匹敵するほどの繁栄を極め、また、北前船交易により多くの伝統

芸能や生活文化が傳承されている所です。

また、照井町長は小坂町で6月に開催された「観光フォーラム」にも出席されたご縁もあり、今回の事務調査の訪問地としました。

江差町議会は、議会運営の会議規則の中で、一般質問の際の質問回数は、再々質問までと規定しており、さらに質問議員の持ち時間も60分と決めているとのことでした。そのため、6名からの通告があった場合でも一日で終わることもあるとのことでした。3回の質問で、執行部側からの議員の意に沿う答弁を引き出すには、議員の力量も問われるものと感じました。また、「開かれた議会」を

標榜し、議会が住民にきちんと向き合う関係を強化するため、議員同士が議論し、地域の課題や多様な意見を調整しながら、問題点の解決を図ることを目指しての取り組みがなされており、大変勉強になりました。



江差町での研修

総務福祉常任委員会

平成28年11月9日～11月11日
長崎県東彼杵町・佐々町

調査テーマ

- ・ 空き家登録バンクについて
- ・ 先進的な包括支援センターについて

東彼杵町は、長崎県のほぼ中央に位置し、車で長崎市まで40分、長崎空港まで25分と交通アクセスに恵まれた人口8255人の町です。さらに7年後には、九州新幹線が延伸予定とのことであり、それを起爆剤としてさらなる定住・移住を目指したいとのことでした。そのため、平成23年から「空き家バンク制度」を創設し、借り手にも貸し手にも手厚く補助を出しているとのことでした。空き家を登録すれば5万円、空き家を改修する場合は上限100万円、空き家の所有者

が賃貸借契約を結んだ場合は1物件につき40万円、さらに移住者にも40万円を補助しているとのことでした。そのため、平成23年度から平成27年度までの登録件数は、910件と我々が驚くほどの件数でした。

渡邊町長は、「一流の田舎」を目指しており、そのための施策をこれからも推進していくと言っていました。議会からはたまにお叱りも受けるようですが、これからも取り組みを継続していくとのことでした。



東彼杵町での合同研修

長崎県佐々町は、周辺を25万都市の佐世保市に囲まれた人口1万3792人の町です。なぜ佐世保市の中にあるかという点、周辺自治体が佐世保市と合併したことによることでした。佐々町も単独立町を選択した自治体です。

佐々町では、介護保険制度が始まった頃には認定率が14・1%でしたが、年を追う毎に上昇し、4年後の平成16年度には19・3%となったそうです。

そこで独自に平成18年度に地域包括センターを立ち上げ、成果を上げたとのことでした。

初めは、はじめに国の方針に沿って介護事業を始めたのですが、保険料は増え、認定率は上がっていくばかりだそうでした。そこで、先進地であった埼玉県和光市に研修に行き、介護を受ける手前でもしなければならぬかというビジョンを明確化し、介護予防・日常生活支援総合事業をスタートさせたとのことでした。

その結果、平成18年に最高

の21・5%であった認定率が、平成28年には13・6%まで改善したそうです。

小坂町も介護では先進地ですが、私たちも佐々町で得た示唆や実例を更に精査し、町の福祉向上を図るための具体的施策を練り上げ、その実現に向け提案していきたいと考えています。



佐々町での研修

産業教育常任委員会

平成28年11月9日～11月11日
長崎県東彼杵町・雲仙市

調査テーマ

- ・空き家登録バンクについて
- ・農業振興・6次産業について

長崎県雲仙市は、島原半島の北西部に雲仙普賢岳を取り巻くように位置している人口4万5127人の市です。

雲仙市では、農林水産振興計画を策定し、担い手の育成、農業基盤等の向上を目指しています。中でも特筆すべきは、農事組合法人「守山女性部加工組合」の取り組みで、ながさき伝統野菜の「雲仙こぶ高菜」で地域活性化を図っているところです。

母から娘へと継承されてきた郷土の味を後世に伝えたいという思いから、昭和62年に設立したとのことでした。化学

肥料や合成除草剤、化学農薬の使用を禁止するなど生産規定を細かに定めることにより安定して生産が出来るようになったとのことでした。この取り組みは、イタリアにあるスローフード協会国際本部から、日本で唯一、スローフードの最高位である「プレジデオ」の認定を受けたそうです。

今後の展望としては、世界から認知されたことから、輸出に取り組み販路を拡大したいとのことでした。

小坂町も6次産業を目指していることから、学んできたことを提言していきたいと思えます。



雲仙市での研修

編集後記

平成29年は酉年。「不安を酉除き成長を酉込む年」とも言われ、商売繁盛に繋がるなど、とても縁起の良い年といわれています。

また、「酉」には収穫や、実りの年などの意味がありますので、物事が頂点に達する時期ともいわれています。これまで勉強してきた事や努力してきた事が町民皆さんにとって報われる年になることをご祈念申し上げます。

議会も昨年の改選から、一年を経過しようとしています。十二名の議員が、町民皆さんのご意見や町が抱える諸課題に対し、どのように向き合い、提言・発信するべきか、そして、この一年を通じて足跡を標したか、「飛翔」の年である「酉年」にならない、大きく羽ばたき町政発展に寄与出来ればと考えるところです。

今年一年が町民皆さんにとって、良い年でありますことを心からお祈り申し上げます。

編集委員 成田直人（年男）